

精神神経科の存続を強く要望

8月5日、浦河赤十字病院は、精神神経科を平成26年3月末をもって廃止する意向を町へ正式に伝えてきました。

管内7町の支援を受けて病院増改築工事の完成間近での発表などか

ら、町は病院側へ廃止撤回を強く要望し、関係機関へ存続要請を行うことを伝えました。

廃止についての理由

廃止の理由は、精神神経科の入院患者の減少により収入が減少していること。常勤医2人が平成26年3月末で退職する予定であること。

廃止は地域医療の疲弊を招く

精神神経科の廃止となった場合、現在の入院している患者の処遇、認知高齢者や精神障害者で入院が必要となった患者への対応、急ぎよ入院が必要とされる患者の受け入れができなくなりま

す。また、収入の減少が理由となれば、精神神経科以外の診療科にも影響が考えられます。地域センター病院、第2次救急医療機関、災害拠点病院の位置付けされた重要な病院です。

地域医療が守られるのか、将来が心配されます。

存続を求める運動を展開

病院側から、管内7町に精神神経科の廃止の意向が伝えられたことによつて、管内7町長の会議が開かれました。その中で、日高町村会（小竹国昭会長）と日高総合開発期成会（酒井芳秀会長）で存続を求める緊急申入れや要請活動を、日本赤十字社本社や日本赤十字社北海道支部、北海道、厚生労働省などに行つてが決定されました。

町では、町議会厚生文教常任委員会へ報告。9月6日に緊急の自治会長会議を開き、存続への町の意向とこれまでの経過説明を行い、協議しました。この結果、9月30日の日高町村会・日高総合開発期成会による浦

ご協力ありがとうございました

急きよ、町民皆さまの署名活動のお願いとなりましたが、町内外7,220人の署名が集まりました。ご協力ありがとうございました。

(平成25年9月27日現在)



精神神経科の廃止が発表され、急きよ開かれた自治会長臨時会議

河赤十字病院の精神神経科存続緊急要望に間に合うように、町民皆さんの署名を実施し、併せて強く要望することであり、急きよ、町民皆さんへお願いすることになりました。

管内連携して存続を訴えていく

将来にわたり、安心して必要な医療を受けられる環境を守るためにも、管内7町が連携して、精神神経科の存続を関係機関へ要請していきます。